

第51回 鹿内 菜穂さん (亜細亜大学)

日本心理学会若手の会コラムリレーでは、若手のみなさまに、ご活躍されている領域や普段の生活についてご紹介いただきます。

第51回目は、鹿内 菜穂さんにご執筆いただきました。

ダンスを研究するために

臨床心理士を目指して大学に入学しましたが、最も関心のあったダンスセラピーを研究テーマに日本の臨床心理学コースへ進むことは当時難しかったため、修士課程はスポーツにおける心身相関の研究室に進学しました。

そこでは、スポーツ心理学の知見を広げる一方、自分の研究領域を模索する毎日でした。なぜなら、(舞踊)ダンスは教材研究、怪我や摂食障害に関する研究、史学や文化人類学の研究が主流でした。ダンスを科学する研究は世界的にも少なかったのです。その模索の中、工学分野でダンスの定量化が試みられていることを知り、理工学研究科に進学し直し、知覚・認知研究のほか、舞踊動作の定量化、デジタル・アーカイブ等に取り組みました。

近年、中学校体育におけるダンス必修化、また SNS や動画配信の普及等により、一般の方にとっても、ダンスは身近になったように感じます。一方で、ダンスをとりまく諸問題を、心理学的にアプローチする研究は多くありません。ダンスに魅了される人が増えているように、ダンスを心理学的視点で考えたいという人が増えてほしいと願っています。

鹿内 菜穂 (Nao SHIKANAI)

【所属】 亜細亜大学

【連絡先】 shikanai@asia-u.ac.jp

【ホームページ】 <https://researchmap.jp/7000005138/>

【その他】 現在は、大学で体育・スポーツに関する授業を担当しています。プライベートでは、踊ることよりも観ることが増えてきました。研究では、舞踊・ダンスにおける表現者と鑑賞者／観客の相互作用、コミュニケーションのほか、最近ではヨガによる心身への影響についても取り組んでいます。